

‘09-2-26

淡海ネットワークセンター訪問報告

報告者 乾真人

日時：‘09-2-25(水) 13:00~15:00

場所：淡海ネットワークセンター

面談者：大室悦賀（おおむろのぶよし）氏、辻静（つじしずか）氏

大室氏略歴（インターネットより）

1961 東京生まれ

1984 拓殖大学政経学部経済学科卒

1998 法政大学大学院修士課程終了

2007 一橋大学大学院博士課程満期退学

2007 京都産業大学経営学部専任講師

2008 京都産業大学経営学部准教授

2007・4～ （財）淡海文化振興財団市民事業創出支援プロジェクト Mgr

当方：橋本、竹吉、杉本、乾

訪問目的：淡海ネットワークセンター主催の四日市市の NPO バス視察研修会に参加させていただくに当たり、センター側の要請により事前打ち合わせのため訪問した。

面談内容：

視察研修スケジュールの打ち合わせと同時に、コミュニティバスプロジェクトの展開方法などにつき意見交換を行い貴重なアドバイスを受けた。

以下にその概略につき報告する。

1、視察研修スケジュール

3月3日(火)10:10 富田駅集合⇒バス体験乗車⇒NPO 法人「生活バスよっかいち」との交流⇒解散

本研修の参加者は10人（わが街つくる会6人、福井（*）、京都の活動団体より各1名、センター2名）である。当初センター職員の研修と理解していたが、わが街つくる会のメンバーのために企画された研修になっている感がある。

*NPO 法人ふくい路面電車とまちづくりの会（ROBA）

2. 意見交流

①全国のコミュニティバス事業は全て行政の補助の下、運行をバス会社に委託しているが全てが赤字経営であり早晚経営破綻がやってくると思われる。

②最初から NPO 法人を設立して進める方法はお勧め出来ない。参加メンバーに必ず足を引っ張る者が出てくる。また NPO は意思決定に時間もかかる。先に枠をはめると自由度が失われる。「わが街つくる会」は法人化していないだけで立派な NPO 組織である。このまま任意団体として残しておき、その傘下に有限会社、株式会社なりを設立して自主運営を検討していったらどうか。活動していない

幽霊会社を定款変更して活用するのも一つの手段である。車両、運転手などを自前で調達することも可能となる。運営資金を確保するためには市民ファンドをお勧めする。この場合は必ず金銭でない配当（サービス）を考えておかねばならない。資金を借り入れたりすると必ず失敗する。コミュニティバスが平野学区にとって何故必要かとの合意形成を行い、継続運営を図るためには住民応援団を作らねばならない。住民出資は関心度アップにも繋がる。自治会組織は行政組織の延長上にありこれを使うのはよくない。またバスの運行は初めから大風呂敷を広げず、最も効果が期待されるルートから始め、状況を見て順じ拡大して行くのがよい。単にコミュニティバスを走らせることを目的にするのではなく、街づくりの一環として捉える事が必要である。平野学区の資源などの再発掘も行い町の活性化に結び付けて行くのがよい。

- ③ こういう活動は一部の人間ではなく多くの人が熱意を持つことが必要である。そのためには是非ワークショップをもつことをお勧めする。アドバイザーの一員としてお手伝いすることはやぶさかでない。また実践活動家の方々の紹介も今回の研修の場で行いたい。わが街つくる会との交流も図れることと思う。じっくり話し合うためには休日での交流も可能である。

- ④ 平成 21 年度のパワーアップ事業に継続申請を行う場合は、その目標を、本年の活動を通して、課題となった事項を整理し、事業の具体的な姿、形を描くことに置いたらいいのではないか。これが煮詰まれば次は住民との協働へと展開出来る。この事業が成功すれば日本初のケースとなるだろう。

3. その他

- ① 四日市の NPO 法人との交流会での質問事項を事前提出して欲しい。
⇒わが街つくる会の紹介及び質問事項につき 2 月 28 日（土）にセンター送付。
- ② 大室先生よりわが街つくる会主催の「第 1 回市民バスフォーラム」を開催してみてもどうかとの提案があった。いながらにして全国の情報が集まると同時に、PR 効果絶大である。との理由。

以上